

1 日 時 平成28年11月8日（火） 第2校時（10：50～11：40）

2 場 所 1年1組 HR教室

3 学 級 普通科 1年1組（男子19名、女子19名、計38名）

4 生徒観 対象クラスは1年飛翔クラスである。多くの生徒が四年制大学への進学を希望しており、授業への取り組みは積極的である。一方でクラス内の学力の差は大きく、また、学習習慣の定着にも差がある。基礎学力は毎日の課題としている復習用のプリントで定着を図り、授業では自学自習では難しい発展的な内容に取り組む時間を確保したいと考えている。

5 使用教材 教科書：高等学校数学 I（数研出版） 副教材：4STEP数学 I + A（数研出版）

6 単元名 第3章 図形と計量 第2節 三角形への応用

7 単元の指導計画

第2節 三角形への応用	4 正弦定理	(1時間)
	5 余弦定理	(1時間)
	6 正弦定理と余弦定理の応用	(2時間)
	7 三角形の面積	(3時間) (本時は2/3時間)
	8 空間図形への応用	(3時間)

9 単元の評価規準

①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
三角比の考え方に関心を持ち、課題を自ら解決しようとしている。	数学的活動を通して、具体的な図形に対し、数学的に考察しようとする事が出来る。	与えられた条件に対し、正弦定理などを正しく用いることが出来る。	三角形の面積の求め方などの公式を理解し、基礎的な知識を身につけている。

10 本時の目標

- ・与えられた課題に対し、意欲的に取り組むことが出来る。(①)
- ・三角形の面積をもとにして考察することが出来る。(②)
- ・課題となる部分に対して、適切に諸公式を適用することが出来る。(③④)

1 1 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導過程・留意点	評価
導入 2分	小テスト	代表的な角度の三角比の値を確認する。		④
展開 45分	課題に取り組む ①垂線の長さ ②角の二等分線 ③内接円の半径	グループ毎に課題に取り組む。 ・三角形の面積を求める。 ・三角形の面積を利用できることに気付く。 ①底辺をBCとみれば、求める長さは三角形の高さ ②ADによって、2つの三角形に分けられるので、面積の和を考える。 ③内心と頂点を結ぶことで、3つの三角形に分けられる。	課題1つにつき15分程度となるように、発問等をしながら進めていく。 グループ内にこだわらず、必要に応じて誰とでも相談するように机間巡視等を行う。 全体で共有すべきことはホワイトボードに書いてもらうなどし、共有する。 面積の利用だけにこだわらず、課題解決に向けた考え方は活かすように生徒を促す。	① ② ③ ④
まとめ 3分	宿題の指示	宿題を確認する		